

2026 年 10 月 8 日

報道関係者各位

株式会社 FRONTEO

**JT のコーポレート R&D 組織「D-LAB」が
FRONTEO の医学論文探索 AI「KIBIT Amanogawa」を導入
創薬領域を中心に活用されている AI「KIBIT」を用いて技術シーズを探索**

株式会社FRONTEO（本社：東京都港区、代表取締役社長：守本 正宏、以下「FRONTEO」）は、日本たばこ産業株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：筒井 岳彦、以下「JT」）のコーポレートR&D組織「D-LAB」に、医学論文探索AI「KIBIT Amanogawa（キビットア マノガワ）」が導入されたことをお知らせします。

「D-LAB」は、JT Group Purpose「心の豊かさを、もっと。」の具現化に向け、長期的な視点で「心の豊かさ」の研究・探索・創造を推進するコーポレートR&D組織です。たばこをはじめとする既存の事業領域にとらわれず、「心の豊かさ」という提供価値を起点に、大学や企業など外部パートナーとも連携しながら、サイエンス&テクノロジー領域の研究や体験デザインの研究、将来的な商品・サービスにつながる事業シーズの探索・創出など、多岐にわたる活動を展開し、常時100件以上のプロジェクトを進めています。「D-LAB」における研究・探索活動の一環として「KIBIT Amanogawa」の活用が開始されました。

■創薬研究から、新たな技術シーズにつながる仮説探索へ

「KIBIT Amanogawa」は、自社開発の方程式駆動型AI「KIBIT」^{*1}の自然言語処理技術を活用し、4,000万報超の膨大な医学・生命科学の論文群を、網羅的かつバイアスを排除して解析するAIシステムです。これまで主に製薬企業やアカデミアでの創薬研究において、疾患と標的分子^{*2}との未知の関連性の探索や、メカニズム（作用機序）の仮説生成などを中心に活用され、さらに現在は多様な領域の企業などにおける活用が広がっています。論文に直接記載されていない関連性を発見する「非連続的発見」のアプローチにより、従来の論文探索では見いだせなかった新たな知見や事象間の関連性の発見を支援します。

■FRONTEO 取締役/CSO（Chief Science Officer） 豊柴 博義のコメント

「『D-LAB』の取り組む『心の豊かさ』を起点とした研究・探索活動は、既存の枠組みにとらわれず、さまざまな領域の知見を結び付けながら新たな可能性を見いだしていく取り組みだと受け止めています。『KIBIT Amanogawa』は、膨大な医学・生命科学論文を網羅的に解析し、人では気付きにくい未知の関連性を見いだす『非連続的発見』を可能にします。『KIBIT Amanogawa』を『D-LAB』における研究・探索活動に活用いただくことで、既存の知識の

延長線上だけではたどり着くことが難しい仮説や着想が生み出され、新たな価値の創出や、人々のQOL（生活の質）の向上につながることを期待しています。」

- *1 方程式駆動型AI「KIBIT」：FRONTEOが独自開発した人工知能（AI）。方程式を用いることで非連続な発見、因果関係の把握、高い再現性を実現。学習プロセスの軽量化によりCPUレベルで高速・高精度な解析を可能とする
- *2 標的分子：薬を作用させる対象とする分子（遺伝子）

■ 「KIBIT Amanogawa」について URL：<https://lifescience.fronteo.com/products/amanogawa/>



「KIBIT Amanogawa」システム画面。左上「Space Map」の点は個々の論文を示す

「KIBIT Amanogawa」は、FRONTEO独自の自然言語処理技術を用いた医学論文探索AIシステムです。4,000万報超の論文データを網羅的かつアンバイアスに解析し、論文に直接記載されていない未報告の関連性を発見する「非連続的発見」のアプローチを特長としています。これまで製薬企業を中心に、創薬標的分子と疾患の未知の関連性の探索や作用機序の仮説生成などに活用されてきました。本技術は、化粧品、ヘルスケア、食品、素材など、幅広い領域における研究開発にも応用可能です。

■ 株式会社 FRONTEO について URL：<https://www.fronteo.com/>

FRONTEO は、自社開発の方程式駆動型 AI「KIBIT（キビット）」の提供を通じて、日夜、社会課題と向き合う各分野の専門家の判断を支援し、イノベーションの起点を創造しています。当社独自の自然言語処理技術（日本・欧州・米国・韓国特許取得済）は、汎用型 AI とは異なり、教師データの量およびコンピューティングパワーに依存することなく、高速かつ高精度での解析を可能にします。加えて、解析した情報をマップ化（構造を可視化）する特許技術を活

用することで、「KIBIT」が専門家のインサイトにダイレクトに働きかけることができ、近年、「KIBIT」の技術が創薬の仮説生成や標的分子探索にも活かされています。



「KIBIT」の独自技術およびアプローチを通じて、「集合知に埋もれたリスクとチャンスを見逃さないソリューションを提供し、情報社会のフェアネスを実現する」理念の実現に向けて、[ライフサイエンス AI](#)、リスクマネジメント（[経済安全保障分野](#)、[ビジネスインテリジェンス・コンプライアンス支援分野](#)、[ビジネスインテリジェンス・プロフェッショナル支援分野](#)、[リーガルテック AI 分野](#)）、DX（[株式会社アルネッツ](#)）の各事業で社会実装を推進しています。

2003 年 8 月創業、2007 年 6 月 26 日東証マザーズ（現：東証グロース）上場。日本、米国で事業を展開。資本金 915,057 千円（2026 年 6 月 30 日時点）。

※FRONTEO、KIBIT、AmanogawaはFRONTEOの日本および欧州、米国、韓国における商標または登録商標です。

＜報道関係者のお問い合わせ先＞

株式会社 FRONTEO 広報担当

Email : pr_contact@fronteo.com 電話 : 080-3449-6844

＜ライフサイエンス AI 事業に関するお問い合わせ先＞

株式会社 FRONTEO ライフサイエンス AI 事業本部

<https://www.fronteo.com/ja/contact/business>